

## Y02a 宇宙天気インタプリタ育成カリキュラム開発のためのゼミ型講義の試行

野澤恵、笹本晃祐、高城有生 (茨城大学)

近い将来「太陽フレア爆発等の極端な宇宙天気現象によって、通信・放送・測位、人工衛星、航空無線、電力等の社会インフラに異常を発生させ、社会経済活動に多大な影響を与えるおそれ」が報告され、その人材育成が急務となっている。その一つとして宇宙天気予報士制度の提言がされている。しかし、一般社会への宇宙天気の影響は限定的なものであるため、実際は特定実務を対象とした専門的な予報を行う役割が必要である。その役割を「宇宙天気インタプリタ」とし、その育成カリキュラム開発が必要である。この実現のために、本年度から科研費基盤C「宇宙天気予報を深化させた宇宙天気インタプリタ育成カリキュラムの開発」(23K02807)として採択された。このカリキュラムを修了することで、将来の宇宙天気が必要な業種への就職などに繋る人材の育成を目指す。

その実践として、最初に学ぶ側の需要を知る必要があり、今年度の上半期にオンラインで宇宙天気を学びたい受講生をアツめた。短期間で60名ほどが受講の希望があったが、大学生や院生が半分程度で、あとは社会人であった。また、宇宙天気予報士を目指すグループもあり、これらの棲み分けが必要ながわかった。実際の講義はゼミ形式で、この夏までに導入としての概論を5回で開講する予定である。学生らが宇宙天気に調べたことを発表し、それに関して講師から助言をする形を取る。しかし、社会人が多いため、実際オンラインで参加するの半数以下であり、録画して受講者に配信も行なっている。

始めたばかりなので手探り状態であるが、配信を聞くだけの講義はこの講義の目的ではないので、積極的な参加方法の仕掛けが必要ながわかった。次の段階として、今年度下半期の講義は概論ではなく、特定業務で必要とされる人材像とより具体化した講義内容としたオンラインのゼミ型講義を行う予定である。